

令和3年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会 開催報告

- 1 趣旨** 県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** ・「学校を核とした地域力強化プラン」事業実施市町担当者
・「学校を核とした地域力強化プラン」事業未実施市町の参加希望担当者
・各市町生涯学習・社会教育主管課担当者 ・各市町学校教育主管課担当者
・地域学校協働活動推進員 等
- 4 日時** 令和3年4月26日（月）13:30～15:00 （15:00～CS連絡協議会）
- 5 会場** 滋賀県庁東館7階大会議室（※オンライン参加の場合は任意）
- 6 内容** ○行政説明
・滋賀県における地域と学校の連携・協働推進方針について
・事業概要について
・今年度の研修について
・補助金事務および事業実施の留意点について
○講演
・演題：「コロナ禍における地域と学校の協働を考える」
・講師：武井 哲郎 氏（立命館大学経済学部 准教授）
- 7 参加者数** 66名（来場27名、オンライン39名）

8 講演の概要

講師より、「地域と学校の協働にはプラス面もあればマイナス面もある。協働そのものが目的化すると、子どもやその保護者に対して負の影響を生じさせることすらある。地域と学校の協働は、子どもの学びや育ちを保障するための手段であることを忘れてはならない。」という基本的なスタンスの説明から始まった。講演の流れは、①Before コロナの地域と学校の協働、②協働の現状と課題を分析する、③After コロナで求められる協働、④With コロナ時代に取り組むべきこと、であった。地域と学校が協働するときのポイントについて、『学校づくりと地域づくり』および『プログラムの実施（Doing）と居場所の提供（Being）』が相補的な関係性にあるということで、2軸4象限を用いて共に考えることによって整理できることを提示いただいた。さらに、After コロナにおいて、『校内居場所カフェの提供』や『こども食堂』、『フリースペース事業』が有効な取組になることや、With コロナ時代における学校運営協議会のバージョンアップを図るためのヒントをご教示いただいた。

9 参加者のアンケートより

- ・国としての施策の流れや事業の仕組みがわかりました。
- ・多くの市町がCSを導入していこうとするときに、要件と活動をしっかりと理解して進めていくことの大切さを認識することができました
- ・After コロナに向けて、学校運営協議会のバージョンアップ、現状の委員は適切であるか、見直していく必要性をわかりやすく話していただきありがとうございました。
- ・「居場所の提供」という視点が参考になりました。どうしてもプログラム実施に目が行きがちです。校内居場所カフェ…いいですね。
- ・研修会の参加は初めてなので、正直内容の理解は3割もできていませんが、紹介いただいた本を活用し再度学習し、少しでも理解を進めていこうと思います。
- ・四領域で示された図が印象的でした。Doing と Being に分けてこれからの動きが明確に示されました。今後どのようにサポートしていくのかを考える目標となりました。
- ・学校づくりと地域づくり、Doing と Being の話により、これまで子どもの生活（暮らし）を漠然と捉えていたところを整理して考えることができ、とても勉強になりました。With コロナ、After コロナを見据えての取組をしていくことが大切と感じました。
- ・どのような人を据えていくのが真の求めるCSの母体となる運営協議会となっていくのか、これから先の本市の目指すCSづくりの大切な提言となると思います。

